

8月の衛研検査情報

～概要版～

横浜市における2018/2019シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

主な結果 横浜市における流行は、AH1pdm09ウイルスおよびAH3型ウイルスが混在し、過去10年間で5番目の規模の流行で、定点あたりの報告数の最大値は、2シーズン連続で高値を示しました。病原体定点ウイルス調査での分離・検出数の割合は、AH3型ウイルス49.4%、AH1pdm09ウイルス44.2%、ビクトリア系統のB型ウイルス5.9%、山形系統のB型ウイルス0.4%でした。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症のまとめ -2018年分離株について-

主な結果 当所に搬入されたCRE159株中、公衆衛生上特に問題となるカルバペネマーゼという酵素を産生するCPEは57株でした。この57株のうち、IMP-1型が48株とそのほとんどを占め、他はIMP-11型が3株、GES-24型が2株、NDM-5型、NDM-1型、OXA-181型、その他が各1株でした。IMP-1型は、関東地方で多く分離されている型です。NDM-1型、NDM-5型およびOXA-181型は主に海外で分離されている型であり、これらの菌株が分離された患者にはアジアへの渡航歴があったことから海外からの持ち込みが示唆されました。

農産物の残留農薬検査結果（令和元年6月）

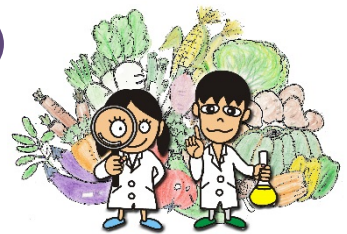
主な結果 市内産農産物22検体について検査を行ったところ、5検体から農薬が検出されました。また、国内産農産物5検体について検査を行ったところ、1検体から農薬が検出されました。いずれも残留農薬の規格基準値を超えるものではありませんでした。

【トピックス】シックハウスに係る最新の動向 - 厚生労働省の室内濃度指針値が改正されました -

主な内容 「シックハウス問題」に対応するために、厚生労働省では室内空气中化学物質の室内濃度指針値（以下、指針値）を策定しています。この度、平成31年1月17日付でその一部が改正され、キシレン、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシルの指針値が強化されました。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 令和元年7月は、大麻（マリファナ）、手足口病、EBウイルスと伝染性単核症、B群レンサ球菌感染症に関するページのアクセスが多くみられました。総件数は248,888件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください



<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/geppo/inspection-inf.html>

横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。